

FUTURE BEAUTY THE TRADITION OF REINVENTION IN JAPANESE FASHION FUTURE BEAUTY

日本 アッ シン



不連続の連続 ■ 不連続の連続 ■

THE TRADITION OF REINVENTION IN JAPANESE FASHION

日本ファッション：不連続の連続

FUTURE BEAUTY ■ 不連続の連続 ■

不連続の連続 ■ 不連続の連続 ■

不連続の連続 ■ 不連続の連続 ■

不連続の連続 ■ 不連続の連続 ■

不連続の連続 ■ 不連続の連続 ■

不連続の連続 ■ 不連続の連続 ■

不連続の連続 ■ 不連続の連続 ■

不連続の連続 ■ 不連続の連続 ■

不連続の連続 ■ 不連続の連続 ■

不連続の連続 ■ 不連続の連続 ■

不連続の連続 ■ 不連続の連続 ■

不連続の連続 ■ 不連続の連続 ■

不連続の連続 ■ 不連続の連続 ■

不連続の連続 ■ 不連続の連続 ■

不連続の連続 ■ 不連続の連続 ■

不連続の連続 ■ 不連続の連続 ■

不連続の連続 ■ 不連続の連続 ■

不連続の連続 ■ 不連続の連続 ■

不連続の連続 ■ 不連続の連続 ■

THE TRADITION OF REINVENTION IN JAPANESE FASHION

THE TRADITION OF REINVENTION IN JAPANESE FASHION

THE TRADITION OF REINVENTION IN JAPANESE FASHION

THE TRADITION OF REINVENTION IN JAPANESE FASHION

THE TRADITION OF REINVENTION IN JAPANESE FASHION

THE TRADITION OF REINVENTION IN JAPANESE FASHION

THE TRADITION OF REINVENTION IN JAPANESE FASHION

THE TRADITION OF REINVENTION IN JAPANESE FASHION

THE TRADITION OF REINVENTION IN JAPANESE FASHION

THE TRADITION OF REINVENTION IN JAPANESE FASHION

THE TRADITION OF REINVENTION IN JAPANESE FASHION

THE TRADITION OF REINVENTION IN JAPANESE FASHION

THE TRADITION OF REINVENTION IN JAPANESE FASHION

THE TRADITION OF REINVENTION IN JAPANESE FASHION

THE TRADITION OF REINVENTION IN JAPANESE FASHION

THE TRADITION OF REINVENTION IN JAPANESE FASHION

THE TRADITION OF REINVENTION IN JAPANESE FASHION

THE TRADITION OF REINVENTION IN JAPANESE FASHION

THE TRADITION OF REINVENTION IN JAPANESE FASHION

THE TRADITION OF REINVENTION IN JAPANESE FASHION

THE TRADITION OF REINVENTION IN JAPANESE FASHION



FUTURE BEAUTY | 日本ファッション：不連続の連続 |

2014.3.21 FRI-5.11 SUN 京都国立近代美術館 | 岡崎 | THE NATIONAL MUSEUM OF MODERN ART, KYOTO

開館時間：午前9時30分～午後5時 会期中の毎週金曜日は午後8時まで開館(入館はいつでも閉館30分前まで) 休館日：毎週月曜日 *ただし4月28日(月)、5月5日(月・祝)は開館 主催=京都国立近代美術館、公益財団法人京都服飾文化研究財団

日本ファッション：不連続の連続

20世紀後期以降、世界を注目させ現代ファッションを先導した日本ファッション。日本の独自性を世界に認めさせたデザイナーから、ゼロ年代の新たな感性を持った若手デザイナーまで、100点以上の日本ファッションを出展。その創造性を浮き彫りにし、力強いデザインに潜む文化的背景に焦点を当てます。

20世紀後半、日本ファッションは、日本経済の成長と共に世界へ羽ばたき、その独自性を開花させました。1960年代に森英恵、70年代には高田賢三や三宅一生が欧米で作品を発表し注目を集めます。彼らに導かれて、1981年、川久保玲や山本耀司がパリでデビュー。西洋ファッションの伝統的な美意識から解き放たれた日本人デザイナーの作品は〈前衛的〉と評され、賛否両論が飛び交いました。平面性、素材の重視、無彩色など、彼らの作品には、独自の才能のみならず日本の文化が長年かけて培った伝統的な感性を見ることが出来ます。西洋中心のだったファッション界に彼らが与えた衝撃の大きさは、いまや彼らを尊敬するデザイナーが国籍問わず存在し、その〈前衛的〉だった表現がさまざまなレベルで一般化されているのを見れば明らかです。

より若い世代の日本人デザイナーたちは、時にアニメやマンガ、インターネットといったサブカルチャーと結びつき、時に高度にシステム化されたファッションの制度から距離を置くなど、社会の嗜好や変化、それらに潜む問題を感じ取ろうとしています。そこには、服と人との新たな関係性の構築を目指そうとする姿勢を見ることが出来ます。

彼らのアイデアの具現化を支えたのは、京都に代表される高い職人技と探求心を兼ね備えた日本の工芸技術でした。本展は、デザイナーと協業して新たな作品を生み出す工房や職人の技術とそのポテンシャルを取り上げながら、世界に評価される日本のファッションの独自性を、服や映像、関連資料などで通観します。

「Future Beauty 日本ファッション：不連続の連続」展は、2010年のバービカン・アート・ギャラリー（ロンドン）を皮切りに世界5都市を巡回し、高い評価を受けた「Future Beauty」展をもとに、〈着る〉文化の伝統を守り革新し続ける京都と現代ファッションのかかわりを浮き彫りにしながら、新たに構成します。

出展ブランド（予定）

20471120（中川正博+LICA）、ANREALAGE（森永邦彦）、ASEEDONCLOUD（玉井健太郎）、Aski Kataski（牧野勝弘）、beauty:beast（山下隆生）、COMME des GARÇONS（川久保玲）、Eatable of Many Orders（新居幸治+新居洋子）、FINAL HOME（津村耕佑）、HANA E MORI（森英恵）、hatra（長見佳祐）、ISSEY MIYAKE（三宅一生）、ISSEY MIYAKE（滝沢直己）、JUNYA WATANABE COMME des GARÇONS（渡辺淳弥）、KENZO（高田賢三）、KOJI TATSUNO（立野浩二）、mame（黒河内真衣子）、MASAYA KUSHINO（申野真也）、matohu（堀畑裕之+関口真希子）、MIKIO SAKABE（坂部三樹郎+シュエ・ジェンファン）、minä perhonen（皆川明）、mintdesigns（勝井北斗+八木奈央）、Né-net（高島一精）、NORITAKA TATEHANA（館鼻則孝）、ohta（太田雅貴）、OH! YA?（大矢寛朗）、sacai（阿部千登勢）、SHINICHIRO ARAKAWA（荒川真一郎）、S/STERE（小島悠）、SOMARTA（廣川玉枝）、TARO HORIUCHI（堀内太郎）、THEATRE PRODUCTS（武内昭+藤原美和）、TOKIO KUMAGAI（熊谷登喜夫）、UNDERCOVER（高橋盾）、YASUHIRO MIHARA（三原康裕）、Yohji Yamamoto（山本耀司）、writtenafterwards（山縣良和）



左から順に：COMME des GARÇONS（川久保玲）2012年秋冬 林雅之撮影、Yohji Yamamoto（山本耀司）1996年秋冬 島山崇撮影、Pleats Please Issey Miyake（三宅一生）《PLEATS PLEASE: Making Process 2012》1992年/2012年（部分）©三宅一生デザイン文化財団 吉永恭章撮影（*）、SHINICHIRO ARAKAWA（荒川真一郎）1999年秋冬 島山崇撮影、UNDERCOVER（高橋盾）2007年春夏 福永一夫撮影、JUNYA WATANABE COMME des GARÇONS（渡辺淳弥）2004年秋冬 広川泰士撮影、ANREALAGE（森永邦彦）2013年秋冬 ©ANREALAGE CO. LTD、FINAL HOME（津村耕佑）1994年春夏 津村耕佑氏寄贈 島山崇撮影、COMME des GARÇONS（川久保玲）1997年春夏（部分）島山崇撮影、JUNYA WATANABE COMME des GARÇONS（渡辺淳弥）2000年秋冬（部分）広川泰士撮影、（*）以外、京都服飾文化研究財団所蔵

入場料＝一般／当日：1,200円、前売：1,000円、団体：900円 大学生／当日：800円、前売：600円、団体：500円 高校生／当日：500円、前売：300円、団体：200円 中学生以下／無料 *団体は20名以上、消費税込み *心身に障がいのある方と付添者1名は無料（入館の際に証明できるものをご提示ください。）*本料金で同時開催の「テュコの映画ポスター」展及びコレクション・ギャラリー（4階展示室）もご覧になれます。

後援＝経済産業省、京都府、京都府教育委員会、京都市、京都市教育委員会、京都市内博物館施設連絡協議会、京都商工会議所、一般社団法人日本アパレル・ファッション産業協会、一般社団法人日本ボディファッション協会
特別協力＝株式会社ワコール
協力＝株式会社七彩、吉忠マネキン株式会社

展覧会のお問い合わせ＝京都国立近代美術館／〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町 TEL：075-761-4111

テレホンサービス [展覧会のご案内] TEL：075-761-9900 ホームページ <http://www.momak.go.jp>

京都服飾文化研究財団／〒600-8864 京都市下京区七条御所ノ内南町103 TEL：075-321-9221

◎前売券販売場所（2014年1月13日～3月20日までの期間限定販売）＝チケットぴあ（Pコード：765-962）、ローソンチケット（Lコード：58774）、セブン-イレブン各店舗、京阪神の主要プレイガイドなど

交通＝●JR・近鉄京都駅前（A1のりば）から市バス5番、岩倉行「京都府美術館前」下車すぐ ●JR・近鉄京都駅前（D1のりば）から市バス100番（急行）、銀閣寺行「京都府美術館前」下車すぐ ●阪急烏丸駅・河原町駅、京阪三条駅から市バス5番、岩倉行「京都府美術館前」下車すぐ ●阪急烏丸駅・河原町駅、京阪祇園四条駅から市バス46番、平安神宮行「京都府美術館前」下車すぐ ●市バス他系統「東山二条」又は「京都府美術館前」下車徒歩約5分 ●地下鉄東西線「東山」駅下車徒歩約10分 *岡崎公園駐車場（地下）をご利用の有料入館者は、駐車場の割引（1台につき1回）を受けられます。駐車券をお持ちの上お越しください。



京都国立近代美術館
The National Museum of Modern Art, Kyoto